

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本人の希望・意思を聞き取り理解し、集団共同生活であっても本人の自主的な生活・時間の過ごし方に努める	○	利用者個々の心身状況や要望に差異があり、利用者個々への対応はかならずしもでき得ない 屋内でも趣味等についてはある程度は可能だが、屋外における趣味希望を個々に対応することは限界もある
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議で利用者個々の状況や要望について職員間で情報を共有し、本人に負担のない範囲で趣味嗜好を取り入れた時間をつくる	○	日々毎日、利用者個々の希望に応じることは難しく、出来ない場合がある 利用者への対応を交代する形でのプログラムによって、利用者個々への公平な対応をしていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	田園地域の静かな環境が喜ばれているが、農村地域であるがゆえに地域住民との交流は少ない 家族の方々は期間制限もなく自由に出入りしているので、家族と職員間での情報の共有はかなりできている	○	周辺地域の高齢者をはじめとして、介護を要している利用者が交わるような場が少ない 周辺施設での機会を利用するようにしている 家族の方々も比較的繁忙な方が多いが、参加交流する機会を増やして生きたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節に応じて外出の機会を持つが、周辺が閑静であるゆえに出会いも少ないが近隣の方々とは気さくに接触している	○	近隣の老人クラブに限らず交流の機会を持つことが増えれば、つきあいも出来るようになるので努めたい 近隣の方とは時々必要に応じて協力していただくこともある
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前述するように機会としては少ないが、楽しい時間を作るためには重要なことである	○	自治会・老人会等に限らず、近隣の小学校や保育園の行事には見学鑑賞参加して地域での交流の機会を増やしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にそのようなことはないが、隔月の運営推進会議では地域の方にも参加していただいているので、話題の中には少なからず出ます	○	社会福祉協議会等でも健康づくりイベントもあるので適当な機会があれば参加活用したい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、例年通りの外部評価を実施し、注意事項や指摘事項については報告書に従い近々の会議課題にのせて協議している		会議の協議結果に基づき指摘事項に対する改善策を速やかに 対応実施している
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告書も時々の会議に提出閲覧して意見を伺うと共に その改善策実施についても説明をしている		可能な範囲で会議出席者の更なる意見を伺い取り組んで生きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の連絡はもとより、利用者の状況や日常課題についても相談や、認定更新時の代行等で市職員の方に説明し意見を伺っている		個人情報の問題もあるが、行政担当者でありますので意見情報の交換はしていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームは生活保護法の認定機関にもなっているので権利擁護担当者とも協議をすることがある		成年後見制度については、利用者個々の実情を把握して慎重に対処したい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習やシンポジウムに参加し、研修すると共に職員会議でもその テーマを参照して研究担当者もいる		近年では、当ホームでは皆無の状況であり、万が一それを要する場合でも家族に納得のいくよう説明を伴うものとしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には需要事項説明書等に基づき十分説明し、理解を得られた状況で契約をしている 入院加療を要するときは家族と十分話し合い、その時のみ解約行為をしている		共同生活介護の場であることを十分理解していただいているので共同生活に適さなくなった場合は納得のいく説明をしている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人はもとより、その家族の方々からも意見を伺うようにしている		家族の出入りを自由に行っているため、利用者が家族を通じて要望意見をいただいている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭は基本的に所持しないこととしているが、不要であっても何銭かをもっていないと不穏状況になる人もいるので所持金だけとしている ケアプラン更新等の定期的音信時に写真等を含めて報告している		健康管理については、隔週の往診を実施している 不測の事態には家族に取り急ぎ電話等で連絡を密にしている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に要望等のアンケートを実施している 要望等があれば、即協議して可能な限り対処実施している		一任依頼されているようなケースもあるので、真に家族等の意見がこないことも懸念している
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例月の会議には、利用者に関することも含め運営に関する現況実態も報告し意見を聞く場合もある		家庭的な使節作りを方針としているので、職員同士の意見交流も自由にするよう努めている
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	翌月の勤務予定表作成前段で、職員個々より希望休暇日の報告を受けて調整して勤務表を作成している		連休期間の調整は大変だが、工夫をしながら今日までは問題なくきている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職例は少なく、1ヶ月前には退職等の意思表示を得ているのでとりわけ問題となっていない		退職の意思表示が1ヶ月より早く得られれば良いと思う

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会をつくることに努めている 認知症基礎課程は職務上の研修としている 又、各種団体や機関で実施している研修・講習に参加すること奨励している	○ 群馬県で実施している研修にも更に参加したいと考えているが、小規模少人数の職員体制で変則勤務をしている現状では数日間に及ぶ研修への参加が困難である
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県グループホーム連絡協議会(旧称)の会議・研修には職員 交代で参加している 他にも医療機関関係等の研修も参加している 他施設との交流も案内をいただいている範囲ではあるが 良い機会としている	情報交換は重要であり、他施設の現況等も何うことにより比較検討ではありませんが参考になる
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特にはないが、職員同士の意見交換を自由にしてストレスを抱えないように努めている	職務上の何らかのストレスはあると思うが、勤務体制も本人希望を入れているので、これといった問題はないと思う
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割分担をある程度は職員個々に持たせて本人の職務に対する 責任・やりがいを持てるように努めている 就業での待遇面にも 極力期待に沿えるよう努めている	職務への真摯な姿勢を求めると共に、その評価をし、十分とはいえないが尊重した待遇をしていく
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から一定期間をおいて、時々要望を聞き取りしている アセスメントである程度は状況把握をして、利用者本人との相互理解に努めている	利用者本人が自らの生活の場であることをよく認識できるように 要望等を聞き、併せて趣味嗜好についても理解するように努めている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人・家族それぞれが特殊な事情を持っていることもあり、出来る限りの情報伝達を受けて要望に応えるようにしている	○ 家族からの情報は貴重であるが、特殊な事情もあつたりするので 必ずしも伝達がうまくできないことがある 持病に関する伝達が後追いになることもあるので細心の注意をしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活壁や持病は誰にもあるが、伝達文章や家族との話では現況と 違うこともあり、十分な観察を以って検討を要することがある	○	家族からの情報だけでは、思い違いもあったりするので数週間は 慎重に心身共に注意を払った観察も重要である
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活環境の変化は苦痛を伴うこともあるので、心穏やかに生活の場として馴染めるように細心の注意をしている		慣れない生活環境に入って、初期は睡眠も思うに任せない状況もあり得るので先ずは生活の場として安心できるように配慮することは重要である
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とスタッフが家族であるような生活の場づくりを方針としているので、互いに気さくに接するように努めている		介護しているのではなく、共に時間を共有する者同士として親しい関係づくりをしている 利用者への尊敬の念を忘れず、しかし生活の場として堅苦しくならないように努めている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	特に持病の悪化等があった場合、家族との緊密な対応は重要であり疾病改善の道を探ることは共に係わらないと難しい		情報を共有し、同じ視点で価値観を持つことが重要である
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時として甘えすぎたり、頼りすぎたりということがあるが、家族同士の 長い関係もあるので先ずは見守りに努めている		場合によっては、双方の引き離しも必要であったりするが、臨機応変に対応することも大事だと考えている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当初の聞き取りで、ある程度の従来の人間関係を伺っている 本人の要望を聞いたり、家族への連絡で対応できるように努めている	○	職員の立場では、対応に困難なこともあるので要望は理解できるが、対応できない場合はよく説明して理解してもらう
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特にホールでの共用スペースで時間を過ごす時には、利用者同士の係わり方が大きく表れるので十分な位置への配慮が必要	○	利用者の入所・退所もあるので、人間関係がどのように醸成されるのか見極めるのは時間を要する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も電話等で現況について話がある 家族等の精神的負担も考えて対応している		他施設に移るような場合も、出来る限り本人に適した機会と場が 得られるように情報の提供や紹介をしている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の部屋にて面談を行い現状の思いや希望を聞き又、家族の方が来訪した際にも話を伺い意向の把握に努めている		普段の何気ない会話やしぐさから、個人の今までの暮らし方や思いを把握するようにしている 又、言葉による伝達が出来ない方に対しても表情や態度から把握するようにしている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されて直ぐに面談し、本人及びキーパーソンとなられる 家族より話を伺いこれまでの生活環境や暮らし方の経過について把握している		面談したことをアセスメントシートに記録し、情報を職員全体で共有するように努めている
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、定時にバイタルチェックを行うと共に顔色や表情の変化について総合的に把握するように努めている		一人ひとりの身体状態は常に変化しているので、小さな変化も見逃さないように個人を総合的に把握できるように日頃から観察力を身につける
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度、ケースカンファレンスを行い、個人の課題とケアの 実態について話し合い、意見交換し、それらを元に介護計画を作成している	○	介護職員と介護支援専門員の会議になることが多いが、家族には電話にて本人の状況を説明し、意見を伺うようにしている 又、現状では本人が意見を述べることは難しいと思われる
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じた見直しを行っている 又、変化が生じた時には、その都度、職員と話し合いの機会を持ち、家族には電話連絡をして意見を聞くように努め、現状に即した計画の作成をしている		変化することは常に予測されるので、なるべく早い計画の 修正が出来るよう努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に注意が必要な情報や予防しなければならない情報は 個別記録により詳しく記入し、交代の時間帯に口頭にて申し送りをし情報の共有に努め、計画の見直しに生かしている	○	介護者によって記録の仕方が違うので、職員が共通した記録を出来るように勉強会をしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の中には独居生活をしていて、家族が遠方に居住している場合もあるので疾病入院時には家族が即対応できないこともある 家族に代わって、入院手続き・看病をできるだけしている		通院・入院時では、職員で支援することが多い 又、行政手続き等家族の依頼により代行すること多い
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・介護相談員・社協等のボランティア・消防の訓練等の支援協力を得て実施している		利用者本人が、場合によって不穏不安感を持つこともあるので説明納得を得るように慎重を要する
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市の支給品等もあるので、機会を有効に活用するように行政連絡を通じて支援をしている		包括支援センター・行政担当者と常々情報を交換し、より良い支援の方法を模索している
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に包括支援センターを訪問し、現状や課題等について他例を聞きながら参考になるよう努めている		権利擁護については、法的課題や個人情報の関係が多いので慎重にしている
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診健康管理指導を受け、日常的に注意を払っている		入院を要する場合、かかりつけ医の紹介・アドバイスを受けているが、必ずしもスムーズに行かないときもあるので早めの対応に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	通常は、内科医に健康管理指導の往診を受けているが、認知症専門医に接する機会は少ない	○	必要に応じて脳外科医の受診はしているが、認知症専門医の診断指導を受ける必要がある
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師で、実務経験もあるので支援をしている利用者に家族に看護業務についている方もいるので状況等の情報交換はしている		1ユニット単独施設なので、前記の他には往診等も受けていますが、検討を要すると思います
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	数ヶ所の医療機関に入院実績があり、その都度担当看護師・担当医師と、家族を含めて医療計画等の予定を伺い、早期退院の支援をしている		入院した医療機関との情報交換・相談は特に重要だと思います 早期退院を支援し、退院介助も職員ですることが多い
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との相談はもとより、かかりつけ医の指導それによる診療によるところが多いので、職員も含めて方針の共有に努めています		加療を要するのか、終末期介護かの判断は非常に難しく、かかりつけ医の指導により行っています
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医の指導アドバイスと家族の同意の下に、できる限りの支援はしています 必要であれば用具等にも工夫工面に努めています	○	施設内での終末期介護は、かかりつけ医の指導の下ではありますが、万全を尽くせるかという不安要因も感じます
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	6年半の間に自宅介護例2、他施設例3ありました 自宅でのバリアフリー状況、又本人の状況にあった施設設備についてのアドバイス・紹介に努めています		家族の判断事情には全てを知り得ませんが、本人の介護を要する状況からのアドバイス支援をしています

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	緊急的な場合に、『駄目』とか少し語調の強い言葉を発することがあるので常々注意を促すことが重要
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		本人の生活史から来る倒錯に対して、本人が納得できたか という課題はあるがその時点では理解を得られるようにしている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		利用者本人が施設外でのことに要望があれば、家族との相談で 可能な限り家族との協力で支援している 天候や職員体制によっては対応できない場合もあるが、その機会を作ることに配慮している
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		必ずしも本人の希望であるかは計り知れないが、安価で又は無料で費用負担をかけないように努めている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		時々好みも聞いたりし、又は調理に工夫をして食事が楽しく・おいしく取れるように努めている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		飲酒喫煙は一定量と、場所は定めています おやつは健康面への配慮もして、糖尿対策としています

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者本人の日常生活パターンを把握してトイレ誘導や、夜間では歩行弱者は自室内でのポータブルも使用している		利用者本人が、汚物を隠したり失禁への羞恥心も当然あるので心理的負担をかけないように努めている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性・女性を別々の日に入浴を実施している 洗浄支援は勿論のことであり、衛生保持にも努めている	○	日時等の本人希望には、複数の入浴であることから必ずしも対応することはできていない
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠や昼寝も声かけで誘導し、強要することなく本人意思で安らかに睡眠できるようにすることを基本としている 場合によっては必要に応じて納得してもらう状況もある		夕食後はホールでテレビを見るのも、自室で好きなテレビ番組を見るのも自由であり、安らかに睡眠に入れるように努めている
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味的なことや体に負担のかからない程度のことは、日常性重視の視点から実施している	○	屋外での要望に対することは、集団生活の中では必ずしも出きえず難しい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持がないと不穏になる利用者もいるので所持金的に持っている人はいるが基本的には使用目的での金銭所持をしている人はいない	○	認知症介護のみならず、身体介護を伴う人が殆どなので買い物に同行することもあるが、本人が買い物をすることは難しい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に左右されるが、気晴らしは大事であるので退屈を紛らわせられるように努めている 本人が希望しているときは見守りをするよう支援している		天候状態が心配ない限り、戸外への散歩等は支援している
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度の外出の日には希望の食事を聞き、季節折々の場所へのドライブや自然風景鑑賞をしている 本人希望があれば、家族に連絡し共に外出をしている		家族の協力を得られない状況にある人もいるので、個々への対応は全てできないが、対応には努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望があれば、いつでも無料で電話をしている		特に家族が遠方にしかいない人もいるので、家族との連絡も併せて電話は利用している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームへの家族等の来所は時間制限もなく自由に行っている 本人希望があれば、家族に連絡して馴染みの人たちも来所されるように支援している		生活史からの事情で、家族から接触を避けるような要望もあるのでプライバシー保護からも配慮している
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない 疾病等により余儀ない場合は、家族が立ち会うか相談協議の結果で健康安全対策をしている		利用者が疾病の状況になった場合、家族との相談同意に基づき健康管理・衛生面での安心安全に心掛けている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は個室・玄関共に鍵の施錠はしていない		夜間及び早朝は玄関のみ施錠し、個室には鍵設備をつけていない
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りは重要であり、夜間でも夜勤者は定期時間に個室訪問をして見守りをしている		昼夜をかけて見守りをし、しかしながらプライバシーの干渉にならないように配慮している
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険と思われるものはない 法定的な危険物は当然ない		歩行機能の訓練リハビリからも必要性を判断している
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行障害になる物の除去、嚥下障害への見守り、薬の保管場所及び服薬量の支持徹底、行動範囲の観察、火気類の使用管理は日常的に職員同士で注意を喚起している		基本的な危険対処法は常に徹底を心掛け、避難訓練や消火訓練の実施をしている 転倒防止には、個室内のプライバシー保持があるので、定期的な見守りをしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時・事故発生時には冷静な判断と連絡確認を取り、必要に応じて救急車要請等も含めて連絡体制を決めている	○	職員の初期応急手当では、訓練もしているが実践となるとその経験によるところが多いので更なる訓練を要する
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に定期的に避難・消火訓練を実施している 近隣の方には、避難場所も含めて協力を依頼している	○	夜間は1人の夜勤体制であるので、夜間での緊急事態の初期対応には懸念がある
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	常日頃、利用者の変化を観察し、家族との連絡を欠かさないようにしている		利用者に変化があった場合は、速やかに電話連絡等をし 家族への説明とその対応策についてかかりつけ医の指導判断を伝えて理解を得ている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昼夜の変化は朝晩の引継ぎで必ずし、注意深く観察をして 引継ぎ中で情報を共有する		心身の変化に注意を払い、職員同士で意見交換して初期 把握をする
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の処方指導に基づき服薬支援をしている 症状の変化があれば、かかりつけ医に相談判断を仰いで対応している		過剰な服薬にも注意を払い、かかりつけ医の指導判断で対応する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事を楽しむことは勿論、栄養面・体調に及ぼす影響も配慮して食材使用している 歩行筋力低下防止の意味も含めて最低限の身体を動かすよう努めている		服薬だけに頼るのではなく、食事摂取の中でもバランス面と身体に及ぼす影響に配慮していく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きをはじめとして、個々に出来る方法で口腔ケアに努め 夜間は入れ歯もはずして管理支援している		入れ歯は一定の期間を経ると歯茎に合わなくなる時もあり、協力指定の歯科医に相談し、出張診療をお願いして支援をするようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病を持つ人もいる場合もあり、カロリー摂取量への配慮は重要であり、同時に水分補給は脱水症状を避けるため支援に努めている		日常的に重要なことであり、栄養バランス・水分摂取は十分支援をしていく
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関する職場内研修をマニュアルにより実施している インフルエンザ予防接種は全利用者・全職員に実施済み	○	衛生管理面からも細心の注意を払い、発生しないよう努力しているが、外部との接触もあり万全であることは難しい 発生がないように努力は怠りなくしていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒は日課的に行い、手作りも含めて新鮮な食材そして冷凍食品も避けて、衛生管理・食品管理の安全性に努めている		買い置きも少なめにし、新鮮で安心できる食材を使用する
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入りに不自由なく開放的な環境をつくるよう努めている		敷地面積からの制限はあるが、安全用の門扉フェンスのみで施錠もしていない
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた毎日が過ごせるように採光・遮光にも気をつけ、温度・湿度にも配慮して快適な空調管理に努めている		空調管理は健康管理にも大きな影響を及ぼすので、夏季・冬季には万全を期している
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の温かな気持ちでいられる環境は重要なので 夫々の不快感を持たない環境づくりに努めている	○	時には一人で過ごすスペースがあることは重要なことであり只、現状では若干のスペースはあるが十分とはいえない

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談を踏まえて、慣れ親しんだ日常用品を個室内でも使用できるよう、空間スペースでゆとりを感じられるように支援している		家族・利用者には思いのままに過ごせるように日常品は持参していただくように説明している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調管理は細心の注意を払い、異臭があることも大きな環境問題だと考え、常に改善に努めている		田園地帯の良い自然環境に立地しているので、その自然環境の長所を生かすように換気空調は十分できるようにする
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置はほぼ必要なだけあり、できるだけ本人が自主的な自立した生活が出来るように支援している		安全管理は勿論、本人が自立した生活が出来るように十分配慮していく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	施設内での自室等の混乱が時々生じる利用者もいるので、理解できるように表示等を設けたりして説明に努めている		各個室には自分自身の部屋であることがわかるように名前を表示したプレートを付け、混乱が生じててもその都度理解できるように説明している
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設外での散歩には、安全性の確保からも適しているので、それを活用している	○	ベランダで日向ぼっこしたりしていることは常々であるが、建物の外周でということには困難がある

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの建物構造が一般住宅の形式造りになっていますので、ゆとりと落ち着いた雰囲気での日常性を大事にしています。運営の理念方針でも示すように利用者とスタッフが家庭的な中で家族的な生活環境を提供することに努めています。

利用者の中には一人暮らしだった人も数人いて、近親者が遠方にしかいない人もいます。生活保護法の適用施設にもなっていますので、出来るだけ安価な利用費用で利用できるようにも努めています。所定の費用以外は利用者の必要に応じて全て一時立替で利便性を提供しています。個室へのテレビや電気毛布等も持ち込み無料自由としています。又、月に一度は外食の日を定め回転寿司や好みの店に全員で行って外食を楽しんでいます。季節に応じた花見や自然風景鑑賞のドライブも月に一度は行い、比較的歩行が自由な人は数人交代で随時のドライブもしています。

利用者個々の誕生日には祝う会を開き、必需品のプレゼントとにぎやかな会食をします。クリスマス会・節分祭等々の行事はもとより、ボランティアによる太極拳や歌謡会等で楽しみの機会を持っています。天候や状況にもよりますが地域小学校の運動会見物や明和県央校の文化祭にも招かれて各種行事の鑑賞を楽しんでいます。